

令和２年度第２回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和２年８月２８日（金）　　９時３０分～１１時３０分					
開催場所	半田市役所３０１・３０２会議室及び３０５会議室					
会議次第	１．あいさつ ２．議事 （１）令和元年度実績に対する提案について （２）環境保全ポスターコンクールの優秀作品の選考について ３．その他 （１）第２次半田市環境基本計画策定の進捗状況について					
出席委員 ※敬称略	会長	千頭　聡				
	委員	石川　由弘	藤田　純代	船橋　正巳		
		牧野　純子	神戸　繁明	榊原　正躬		
		澤田　和孝				
欠席委員　※敬称略		平林　明美	成田　辰也	和喜田　恵介		
		桑田　八重子	近藤　倉治			
出席職員	事務局	課長	大嶽　浩幸		副主幹	鳥居　高宏
		主査	森下　直孝		主事	青木　大介
	参考	所長	クリーンセンター 加藤　明弘			

次 第	議 事 概 要 各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。
1. あいさつ	－事務局長あいさつ－（略） －会長あいさつ－（略）
2. 議事	（１）令和元年度実績に対する提案について －事務局資料に沿って説明－ （事務局） パートナーシップ会議としての令和元年度実績の提案を決めます。資料１、第１回会議の意見を基に、皆さまからの「評価・意見（令和元年度実績分）まとめ」から、事務局で評価・提案書の案、提案以外を作成しました。３ページからが１３ページまでが評価・提案を記載している箇所になります。第１回会議で決めた柱１～５の評価を市民評価として、それぞれ、３・５・８・１０及び１２ページの下の表に記載しています。また、上の表、庁内評価は、担当課の実績報告、自己評価をまとめたものになります。表以降に皆さまからの意見を「評価できる点」「期待したい点」「評価できない点」「問題と思われる点」を記載しています。今回、会議内では提案内容を大方決めて、それらを踏まえて事務局で作成します。事務局が作成したものを委員に確認いただき、パートナーシップ会議としての提

案とします。既に記載しています部分についても記載内容の誤りや追加事項などがありましたら、併せてご指摘ください。最終的な評価・提案書につきましては、市幹部会議への報告、議会への報告を経まして、1月末までには、HPにて公表予定です。事務局の説明は以上です。

(千頭会長)

それでは、評価・提案書(案)の提案について、順に意見をください。

「柱1 ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち」

これまでにパートナーシップ会議で提案してきた矢勝川の水質問題については、原因を突き止める調査を今年度、実施し始めた。しかし、ため池は行っていないので、ため池の水質改善はどうだろうかなど意見があると思う。

(澤田委員)

ため池水質改善の取組については賛同。追加としては、前回議論になった道路や河川などは近隣市町とつながっているので、他市町と連携した取組を提案する。県としても、半田市は知多半島の中心都市として期待している。他の市町とも一緒になっ

て、具体的に行動できるとよい。

(千頭会長)

前回の議論では、道路の振動騒音は局所的に起こっているということであった。近隣市町と連携した取組を提案事項に追加します。

「柱２ 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち」

(神戸委員)

後期分から家庭部門のＣＯ２排出量が指標に挙がった。新計画でも、温室効果ガス排出量を指標としていることで、一步前進することを期待しているところである。市民活動の指標となればよい。実態に即したＣＯ２排出量が出るようになればよいと思う。

(千頭会長)

ゼロカーボンシティに向けて、具体的にどのような道筋がつけられるか考えるべきである。そのことについても提案事項として明記する。

(石川委員)

再生可能エネルギーの推進ということで、例えば市の建物等への設置の推進というものもあると思う。

(榊原委員)

本日、クリーンセンター所長にも出席いただいている。想いのある桑田委員が欠席であるが、もったいないバザールについても議論したい。

(クリーンセンター所長)

もったいないバザールについて、平成22年にワークショップで提案のあった案件で、平成23年から事業として実現が出来た。それから10年が経ち、クリーンセンターを取り巻く情勢も変化してきており、家庭系ごみ有料化の有料化を令和3年度から実施する。有料化にあたり粗大ゴミも有料となる。また、令和4年度には、ごみ処理施設が、知多南部での広域化となる。そのため、原則としてクリーンセンターにごみは集まらなくなる。それらを踏まえ、またリユースという意識が市民に根付いてきたこともあり、もったいないバザールについては今年度で終了し、次のステップを検討している。例えば、民間事業者を活用したリユース事業などの移行を検討している。これまで、パートナーシップ会議に報告をしていないことお詫び申し上げます。

(榊原委員)

来年やらないことは決定しているのか。検討の段階でパートナーシップ会議推進部会に相談などして欲しかった。ワークショップが推進部会となっており、いわば発起人に情報も相談もなく決断されたのは、淋しい。環境課からも、推進委員から巢立っていった事業と説明があった。立上げ当時の思い入れのある環境課職員がいなくなり、想いが引き継がれていない。

（クリーンセンター所長）

もったいないバザールは市民に浸透して、推進部会から手が離れたものだと考えていた。推進部会を担当する環境課ともったいないバザールを担当するクリーンセンターとの連携が取れていなかった。わざわざ休日のお手伝いはいらないとお断りした。

（牧野委員）

私も推進部会に参加しているが、もったいないバザールについては、当初は準備から当日までお手伝いしていた。順に準備に呼ばれなくなり当日のみの手伝い、最終的に当日も呼ばれなくなった。

（千頭会長）

行政の引継ぎの問題・認識の違いもあったと思う。

今後、もったいないバザールのようなものをなにかやれる方策はあるのか。

(榊原委員)

市長決裁での決定なのか。まだ市民には広報していない段階で、今回が初めて出る情報か。市長決裁でないのならば、来年実施することにまだ余地があるのか。

(クリーンセンター所長)

ごみ処理の担当であるクリーンセンターで、所管する事業であり、所管課としての判断である。現状、大型なもの、家具類はほとんど集まらず、茶器類や漫画などが占めており、以前と比べると良いものが並ばなくなっている。

(榊原委員)

やめる要因は、家庭系ごみの有料化なのか。

(千頭会長)

フリーマーケットの形であれば開催できるのかもしれない。ごみとして有料で引き取ったものを有料で販売することが、課題であると思う。

(榊原委員)

来年は、開催するように考えて欲しい。最後だということを大々的に広報して、行政としても、推進部会としてもけじめがつくようにしてほしい。有料化とは別に、漫画など無料の引き取り項目を作って、その項目の品のみ実施するでもよいと思う。

(クリーンセンター所長)

来場者は、繁栄期は、自動車だけで500台来ていた。現在は、人数で500人くらいの規模になってきている。入札札が入らないよう品物もある。当初よりも寂しくなっている。今年度、大々的に開催したかったが、新型コロナウイルス感染症の関係で開催を中止とした。

10年目の区切りの良いところで終わりとしたい。

(千頭会長)

推進部会は今後開く予定はないか。

(事務局)

今年度の開催予定はない。

(千頭会長)

リユース意識は非常に大事。市民ベースのリユースとして、形を変え、リユースの仕組みをもう一度考えることを提案として

挙げておく。もったいないバザールに変わる新たなリユースの仕組みを市民とともに考えるべきと提案事項に記載する。

「柱3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち」

(榊原委員)

3-2に生物多様性の項目があるが、「河川・ため池の整備」などできるのかできないのか分からないもの挙げていると感じている。3-2-1にある生態系ネットワークなどは、半田市のどこの地区のどの場所のことか。やっていない、できないようなものは評価のつけようがない。

(事務局)

生態系ネットワークでは、小中学校の理科の先生に毎年夏休みを活用し、水生生物調査を実施ししてもらい、過去からのデータを蓄積しているというのは財産である。

(榊原委員)

捉え方が違う。それは水辺の生き物の調査である。整備などと項目を挙げるのであれば、どこかで実施する必要がある。配慮した工事が行われていないことが問題である。資料を見ても、今までこれらが行われた記録がない。市内の河川などで、県が

行った工事であったとしても記録しておく必要がある。こまめに河川工事などを観察する必要がある。柱を立てて、明記している意味がない。市内全般において、関心を持ってほしい。

(千頭会長)

親水性を考量した工事はされているが、多自然型工法はない。自然環境の再生を考慮した工事は、民間事業者ではあるものの公共工事ではない。市だけでなく、知多半島の生態系ネットワークと捉えて欲しい。しっかりと記録として抑えていく必要がある。新しい計画では生物多様性もしっかり抑えていく。半田市は、特定外来生物の駆除は実施しているか。

(事務局)

オオキンケイギクの啓発のみである。市が率先して駆除していることはない。

(千頭会長)

大府市では、ニホンタンポポやフジバカマの植栽・オオキンケイギク駆除などをパートナーシップ会議で行われている。どこがやるかは別として、新計画ではそのあたり明記していく。

(榊原委員)

板山の中池に、オンタイスイレンが浸食している。以前から環境課には、ちょっとずつ摘むなどしなければ、どんどん増えていくだけと伝えている。そんな小さな活動でも立派な取り組みである。ちょっとしたことでも挙げてもらえばよい。やろうとすると行政に負担がかかることがネックである。予算・人員の問題だけで、すぐ出来ることはたくさんある。

(千頭会長)

生物多様性の保全について、地道な活動や情報収集などできることから取組むべきであるというのは提案として入れておく。以前、県立半田東高校には生物部があり、七本木池のカモに関する情報の蓄積があった。そのような活動は、日の目を見ないモノもあるので、市として表彰やすくいあげなどして、次世代の人のやる気を維持してほしい。

(藤田委員)

水生生物調査を実施しているが、生態系の調査にまで発展できないか。

(榊原委員)

理科の先生では、非常に難しい。

(藤田委員)

対策にまで広がりが見せられるとよい。

(千頭会長)

やっていることを、きちっと評価してあげるという点が弱い。

「柱4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち」

(神戸委員)

雁宿ホールのクスノキを中心とした立派な樹があったが、伐採された。

(事務局)

先日、市民から意見をいただいた。管轄が生涯学習課になるので、伐採の理由は分からない。

(神戸委員)

現場の担当者の一存ではなく、市内全体を見て、樹の在り方を慎重に考えるべきである。

(榊原委員)

学校だと校長レベル・公民館などは館長レベルの判断で、ほとんど切られている現状がある。

(千頭会長)

巨樹・巨木・大木が切られているのは問題である。

(神戸委員)

一現場の判断だけでなく、環境保全、まちの景観という観点で総合的な判断で行った方がよい。

(千頭会長)

それらについて、問題と思われる点として明記していく。

(榊原委員)

寺院についても、次々に切っている。寺院は、市有地ではないが難しいと思うが、市内樹木の伐採は、考えて欲しい。

(船橋委員)

昔、市内でどんぐり緑化をおこなったが、これらも伐採が進んでいる。せっかく植えたのに、切られており、情報が共有されていないことに淋しさを感じる。

(榊原委員)

樹が大切にされない文化が半田にはある。

「柱5 みんなで環境を守り育てるまち」

(千頭会長)

前回は企業の支援について提案がありました。環境パートナーシップ推進部会の話題も書いてあるが、必ずしも活発ではないからやめてしまうわけではないと思う。

(榊原委員)

推進部会では、もうアイデアが出せなくなっている。自然消滅気味である。

(牧野委員)

色々な意見を拾い上げる場として活用してほしい。コツコツと環境マップを作成したりしていた経緯もある。

(千頭会長)

提案事項として、推進部会を開催し議論することを挙げたい。解散するにしろ、自然消滅はよくないので、いずれにしても一度開催し、皆さんでどうするか議論した方がよい。

(澤田委員)

前回会議で、柱5はBであったと思う。

(事務局)

資料の誤りです。

(千頭会長)

今回会議の問題及び提案を追記し、再度皆さんに確認していただく。今年度の評価を来年度どうするかも考えなければならない。事務局考えはあるか。

(事務局)

検討します。

(千頭会長)

この後の「評価・提案」について、スケジュールを説明願います

(事務局)

議論した結果を、反映させ委員の皆さんにご確認、了解をいただきます。その後、千頭先生から市長へ評価提案書を手渡していただきます。その後は、幹部会と議会へ報告し、ホームページで公表をします。

《クリーンセンター所長退席》

(千頭会長)

議題2に移ります。

	(2) 環境保全ポスターコンクールの優秀作品の選考について —事務局資料に沿って説明— (事務局) それでは、環境保全ポスターコンクールの選考をお願いします。 テーマは「環境とSDGs」「地球温暖化防止」に限定しました。また、用紙の向きは縦書きとし、縦書き以外は審査対象から外しております。応募総数は140点で、小学生66点、中学生74点です。昨年が、応募総数320点でしたが、新型コロナの影響で夏休みが短くなったことから大幅に少ない応募となりました。この中から最優秀賞の小学生の部1点、中学生の部1点、優秀賞9点を選んでいただきます。次第その他の説明を挟み、議題4にて最優秀賞を決定します。事務局の説明は以上です。 《選考》 次に移ります。
	(3) その他について (1) 第2次半田市環境基本計画策定の進捗状況について 「第2次半田市環境基本計画策定の進捗について」について報告します。現在までに環境審議会、基本計画策定委員会、基本

計画策定作業部会をそれぞれ1回ずつ開催しています。資料「第2次半田市環境基本計画について（骨子案）」によりその進捗状況を説明します。

環境基本計画の基本的事項、策定の目的と位置づけは、「半田市環境保全条例」に基づき、生活環境の保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画で、「半田市総合計画」に基づく計画になります。また、「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)」を含むものとします。計画の期間は、令和3年度～令和12年度となります。

国内外の情勢は、資料のとおり。「半田市の現状と課題」は、環境面では、生活環境・地球環境・自然環境、経済面で半田市の特徴・事業所の環境配慮状況・意識調査結果・地域経済の特徴（地域循環経済分析結果）、社会面の3視点を掲載しています。計画改定の方針性は、

●半田の地域資源や市民・事業者の力を活かし、環境に関する問題の解決のみならず、経済・社会・環境の3側面の統合的向上により、世界共通の目標であるSDGsの達成をめざします。

●バイオマス産業都市構想や2050年ゼロカーボンシティの表明など、本市の前向きでチャレンジ的な取組をもとにさらなる

展開につなげ、地域の環境向上をめざします

●社会情勢を的確に捉え、気候変動やプラスチックごみ問題など本市に求められる新たな環境課題への対応を図ります

●市民・事業者等も計画推進主体であることを踏まえ、構成や表現などわかりやすい計画とします。

環境基本計画における施策体系の枠組みですが、基本理念につきまして現行は3つの理念ですが、新計画では、3.として

「市民・事業者・行政がそれぞれの責務を果たすとともに、3者の協働により、環境に配慮した持続可能なまちの実現にチャレンジし続けます。」を一つ加え、4つの基本理念の計画とします。

将来の環境像につきましては、まだ案の段階ですが、「環境チャレンジ都市はんだ みんなでつくる 住みよいまち」を仮置きしています。

施策体系の枠組みにつきましては、・現計画の柱をもとにしていますが、これまでの取組みからさらに一步進める分野として「脱炭素社会」「循環型社会」を昇格して柱として位置づけます。

・「歴史・文化」は、柱として立てるのではなく、各柱の要素としてちりばめるものとします。

次に「温室効果ガス排出量について」策定委員会資料から抜粋したものです。

本計画には、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく、市域の温室効果ガス削減に関する計画である「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」も含むことから、温室効果ガス排出量を算出することが求められます。排出量の算定方法の整理ですが、まずモデル解析では、半田市のがんばり反映度、感度は高いのですが、事務量が膨大となり現在の環境課の体制では非現実的と判断します。積み上げ式ではがんばり反映度は高く、感度もほどほど、ですが、モデル解析同様事務量が膨大となります。一つ飛ばして、按分法ですが、事務量面では適当ですが、がんばり反映度や、感度は低いものとなります。今後、進行管理していく上での推計方法については、上記及び3頁の資料をもとに、ミックス型を視野に、施策としての取組も含めて、今年度議論を進めていきます。以上で第2次環境基本計画策定の進捗についての報告です。

（神戸委員）

第1次計画と比べ骨子としては変わらないということでしょうか。

(事務局)

柱としては、「地球温暖化」を「脱炭素社会」「循環型社会」に分割した。

(神戸委員)

個人的には、地球温暖化が一番重要という観点を持ってほしい。第1の柱に位置付けて欲しい。

(事務局)

意見として受けたまわります。

(神戸委員)

CO2排出量の指標としてはどのように出るか。家庭部門として、自家用車は除くと表現がある。

(事務局)

平均家庭の算出を考えている。実態に即したものとしては精度を上げていくように探っていきたい。自家用車は運輸部門に分類される。

(神戸委員)

目標をしっかりとて、取り組んでいただくように期待しております。

(榊原委員)

がんばり反映度・感度の表現が分かりづらい。とりあえず言えることは、按分法では全然だめである。その他、ミックス型など事務量も考慮して行っていただければと思う

(神戸委員)

焼却施設が移動すると、CO₂の排出にどのように影響するか。

(事務局)

単純に計算すると、半田市でのCO₂排出量は減る。

(神戸委員)

ごみ1日1人の目標はどうなるか。分別方法は変わるのか。

(事務局)

持ち込み量で負担金が変わるため、目標は継続だと思われる。分別は、把握していない。

(千頭会長)

各市町の分別の方法は、必ずしも一緒ではない。分別は、これからの課題である。

(神戸委員)

状況が変化するので、分別方法は変わっても仕方がないと思っている。分別方法の、周知を徹底してほしい。

(神戸委員)

樹木・草の資源化は継続するのか。

(事務局)

継続すると聞いている

(神戸委員)

樹木・刈草の資源化は、非常に良い取り組みである、ぜひ継続してほしい。

(榊原委員)

現行の計画では、河川・ため池の項目を、環境課や経済課や土木課が答えていた。非常に分かりづらい。今までのやり方を考えなおして欲しい。

(事務局)

複数の関係課に跨ることはある。複数の考え方・立場があり、取組内容を記載いただいている。

(榊原委員)

同じ項目は、なるべく統一してほしい。

(石川委員)

ゼロカーボンシティというのはどういう定義か。

(事務局)

市として、市域全体としての実質排出量をゼロにするものです。

(榊原委員)

全て電化すればよいのか。

(事務局)

市内で発電している再生可能エネルギーを電力として扱えばよい。排出係数の問題で、化石燃料を使うと排出量は多くなる。

(榊原委員)

ゼロとはなにか。どのような状況になればよいのか。全て原子力であればゼロか。

(千頭会長)

「排出」と「吸収」の考え方がある。実質ゼロの捉え方で、私は、市の考え方が分からないが、半田市がどのように置くのか

	の問題である。 (事務局) 再生可能エネルギーの活用がカギである。また、お金で価値を 買うなど方法はさまざまある。 (千頭会長) 別のチャンネルで道筋を立てる必要がある指摘をしている。中 身が今後問われる。 (千頭会長) 骨子案はよろしいでしょうか。 《異議なし》
	先程の議題２で、投票していただきましたポスターコンクールの の最優秀賞を決定します。 ●最優秀賞（小学生の部）近藤 杏奈 ●最優秀賞（中学生の部）原田 飛夢 ●優秀賞 野茂愛弥乃・岡田 琉生・田中 杏波・杉村 眞采・石田 結子・牧野 令依・神谷 実来・小山 瑞記・酒井 春香

	(千頭会長) 以上をもって会議終了。
--	----------------------------------